

ローズグラスの分けつ及びストロンの発生と出穂

佐藤博保・徳永初彦・*松岡秀道・**中川 仁

(九州農業試験場・*農業生物資源研究所・**熱帯農業研究センター沖繩支所)

Hiroyasu SATO, Hatsuhiro TOKUNAGA, Hidemichi MATSUOKA and Hitoshi NAKAGAWA :
Development of Tillers and Stolons Related to the Heading Time of Rhodesgrass

ローズグラスは発芽後1か月ほどすると分けつを開始し、その内いくつかの分けつ茎は、ストロンとなって地上をほふくする。分けつ茎とストロンの発生の時期の早晚と多少は、出穂期の幅の均一性に影響することが多く、発生の分布を個体単位で検討した。

1. 試験方法

分けつの発生と出穂の順序については、温室で1/5000ポットに「ハツナツ」を3月に播種し、出穂した茎にミニラベルを着けて、出穂日の分布を調査した。ストロンの発生については、5月下旬に80 cm × 30 cm で個体植えし、7月15日の出穂時に掘りおこし、分けつとストロンを調査した。また、5品種・系統を使い5月上旬に1.5 m × 1.5 m に個体植えて、時期ごとの分けつとストロンの発生本数を調査した。

2. 結果及び考察

1) 分けつの発生と出穂について

結果を第1図に示した。出穂期間約1.5か月の間に1次分けつの総数が15本の中、7本が出穂し、未出穂茎は10号、14号と、17号以上の高位分けつであった。2次分けつでは総数が14本の中、ほとんどの13本が出穂した。出穂は必ずしも主幹が最も早いわけではなかった。総体的にみて1次分けつの出穂茎7本の内、6月に出穂した茎が4本で、他の3本は7月であり、2次分けつでは13本の中11本が7月の出穂であった。したがって、1次分けつは2次分けつよりはほぼ半月から1か月早く出穂すること、1次分けつの中では比較的低位の分けつが出穂し、高位の分けつの出穂はかなり遅れると考えられた。

2) ストロンの発生

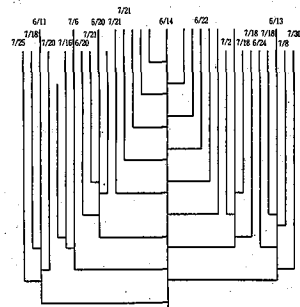
結果を第2図に示した。主幹がストロンになった例である。1次分けつが11本、2次分けつが40本、3次分けつが2本観察された。1次分けつから発生する2次分けつの発生の順序は、1次分けつの発生の早晚と関連は少なかった。

ストロンは主幹と1次分けつから6本、2次分けつ

から5本発生した。このストロンの発生はほとんどが左側の分けつから発生し、右側からは1本のみであり、特に規則性があるとは限らなかった。

3) 時期別にみたストロンの発生程度

結果を第1表に示した。5月上旬に播種すると7月上旬には個体当たりストロン数の平均は3.7~9.0本になり、出穂期の7月下旬には8.5~15.9まで増加した。各系統間での差は、ほふく性の強い「Katambora」や4倍体の「Boma」が多く、系統Bが少なかった。「ハツナツ」はこれらの中間であった。系統Bはストロンの少ない個体を選抜した系統であり、逆に系統Cは多い個体からの系統で、この結果からストロンの多寡は、環境の影響を受けるものの、遺伝的形質であることが推定された。

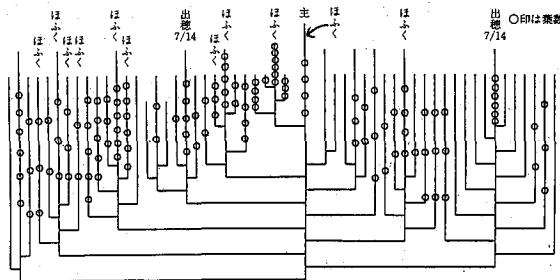


第1図 分けつ様式と出穂時期

第1表 品種及び選抜系統のストロン数の時期別推移

品 種 (系統名)	7/2	7/22	7/26
ハツナツ	6.7	8.5	11.4
系統B	3.7	5.6	8.5
系統C	5.6	8.3	15.6
Katambora	9.0	12.6	15.5
Boma	8.9	12.6	15.9

注) 5月上旬: ペーパーポットに播種, 6月上旬: 圃場に移植



第2図 分けつ様式とストロンの発生状況